

解説

推進工事技士の勉強を通して 見えてくるもの

わたなべ みほ
渡邊 美穂

(株)アルファシビルエンジニアリング
施工本部工務係



1 はじめに

はじめに、少し私の自己紹介をさせていただきます。
1992年生まれのゆとり世代です。工業高校の建築科建築士コースを卒業し、就職したのが2011年4月。もうすぐ7年目に突入します。「推進工事技士」を2014年に取得し、2016年には「二級土木施工管理技士」を取得。今現在は、工務部門に属し、現場での経験を生かし、弊社で行っている施工現場の竣工書類について、担当者と元請会社との連携を図りながら、ほぼ全ての推進工事報告書・工事写真帳の作成業務を主とし、活動を行っています。



写真-1 初の岩場でのクライミング（宮崎県西臼杵郡日之影町にて）

プライベートでは、2020年夏季東京オリンピック種目に新しく加わったスポーツクライミングの中のひとつ「ボルダリング競技」を数年前より趣味で行っています。高さおよそ5m以下の壁に課題が用意され、完登数や挑戦した数を競います。「身体を使ったチェス」とも言われるほど、身体と頭を使います。運動が苦手な方でも身体一つで始められる手軽なスポーツですので、最近運動不足だと思われる方、ぜひお近くのクライミングジムで挑戦されてみてはいかがでしょうか。

2 資格取得をめざしたきっかけ

弊社入社当時は、建築に関しての知識は多少ありましたが、土木という仕事、ましてや推進工事の仕事がどのようなものなのか、まったく知りませんでした。そのような中、弊社に入社し、当時より経験を積み次第すぐにも推進工事技士を取得するよう、ことあるごとに言われていました。今考えると、弊社アルファシビルエンジニアリングの理念や教育上「資格取得」を一つの目標にしていることから、当然だとは思いますが、当時は相当なプレッシャーでした。

しかし、少しずつ仕事を覚えていくなか、推進工事に携わるものとして、推進工事技士は持っていないとまらない資格と捉えるようになり、諸先輩方からの指導の下、推進工事技士の取得をめざしました。

3 活用事例

私の業務は、まず全現場の日報および記録簿のチェックと集計から始まります。何の作業をし、推進開始時の初期推進力、その後の推進力や精度は適正なのかなど、様々な確認を行いながら、确实・正確に集計していきます。写真管理においては、ただ単に整理するだけでなく、安全に作業ができるよう、現場内が整理整頓されているのか？必要な項目の写真は撮れているのか？など、こと細かくチェックしています。推進工事技士について勉強する以前は、ただ設計書や計画書に記載されている決まった項目や数字と捉えており、さほど何も考えず指示されることだけをこなしていました。ですが、推進工事技士について勉強をしていくことで、現場での管理が適正なものなのかを判断することが少しずつできるようになりました。

竣工書類の作成には、社内の教育訓練や経験および資格取得のための勉強などで会得した知識を最大限に活用し、現場の方々の作業が無駄にならないためにも、元請会社や発注者の求める正確な書類を作成するよう心がけています。

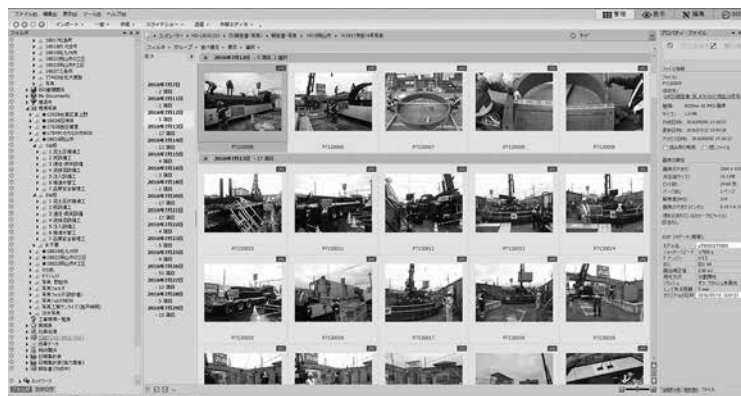


写真-2 現場写真管理状況

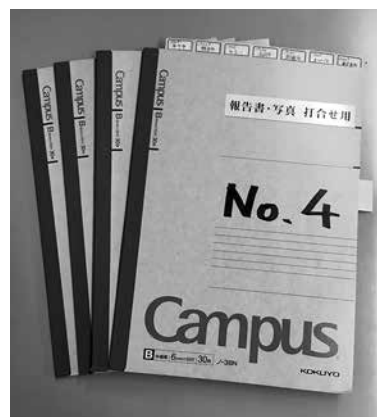


写真-3 竣工書類作成用打合せノート

4 これから取得をめざされる方へのアドバイス

推進工事には様々な工法がありますが、自分自身が携わったことの無い工法について勉強するのは、すごく大変でした。合格するための近道としては、たしかに過去問題を多く解き出題傾向をつかむことだと思います。ですが、その場しのぎの知識になる可能性があります。私が行った対策は、インターネットでの検索です。もちろん社内での勉強会があり、それだけでも大変勉強になりましたが、言葉では理解できていても想像ができないものもあり、より理解を深めるため、インターネットでの情報収集をしました。疑問に思ったらすぐに調べ、写真やイメージ図を見、目に焼き付けることで、本当の意味での自分の知識が養われると思います。疑問に思い、みつけることで、知識につながるチャンスと思えば、さほど煩わしいことではないと思いますので、参考にしてみてください。

5 おわりに

余談ですが、文頭に「私はゆとり世代です」と書かせていただきました。どの時代でもいわれている言葉で「今の若い子たちは…」に加え「これだからゆとり世代は…」と言われることが多々あります。私は、そのようなことを言われる方々の経験を超えることはできませんが、努力をすれば知識で経験分をカバーできていると考えています。まだまだ半人前より少ないぐらいの私ですが、これから推進業者に携わる若い人達に恥じないよう、日々精進していきたいと思っています。

最後になりますが、このような私のつたない文章を掲載していただき、誠にありがとうございます。年度末で忙しいところが多いとは思いますが、無事故・無災害で、小さなことにも目を見張り、気をつけて作業を行っていきましょう。ご安全に！